

太陽は光も熱も利用しよう!

東京都“再生可能エネルギー2020年までに20%へ”

多摩市民環境会議 井上 寿一

熱く語った「再生可能エネルギー戦略」

東京都環境局が幹事となった「九都県市*再生可能エネルギー活用セミナー」が7月22日に立川市で開催され、同局都市地球環境部計画調整課の田中圭氏が再生可能エネルギー推進に関する都の取組みを語った。

(*東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉市、さいたま市の関東地方南部の一都三県と五政令指定都市)

まず、行政の使命として、気候変動がもたらす脅威から市民の生命、財産、健康を守る、そして持続的な発展を目指す——これに「責任と権限がある」と切り出した。

都の環境基本計画では、2020年までに東京の温室効果ガス排出量を2000年比で25%削減する。そして再生可能エネルギー利用目標は、2020年に東京のエネルギー消費に占める再生可能エネの割合を20%程度に高めることを目指す。これは国の政策ともほぼ一致している。

都と自然エネルギーが豊かな地域との再生エネの需給連携としては、自然エネが豊かな地域から都がグリーンエネを購入し、当該地域にその代金

を支払うことで、現地の雇用も創出させることが可能。このため、2010年3月に六都道県(東京都、北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県)による地域間連携協定が締結され、CO₂削減と地域経済の活性化を同時に実現させることを願う。

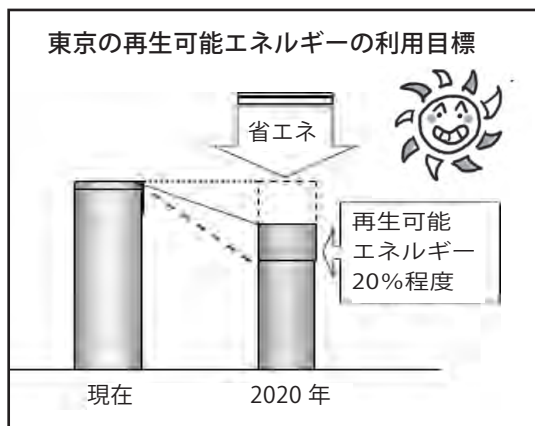
太陽熱利用を優先

さて、都が平成21年～22年度にかけて行った「住宅用太陽エネルギー利用機器対策事業」では、補助申請受付件数が太陽光発電が約19,000件、太陽熱利用が約360件(23年3月速報値)。当初計画より太陽熱利用が大幅に少なかった。

都の太陽エネルギー利用の考え方は、太陽エネルギーの変換効率が光より熱のほうが高いということ。たとえば、熱が変換効率約50%なのに対し、光は約10数%。用途は主に給湯と冷暖房。だから、給湯などの熱需要があるところには、太陽熱の利用を優先的に検討。太陽熱を設置のうえで余裕があれば太陽光発電の設置を検討するとの方針。

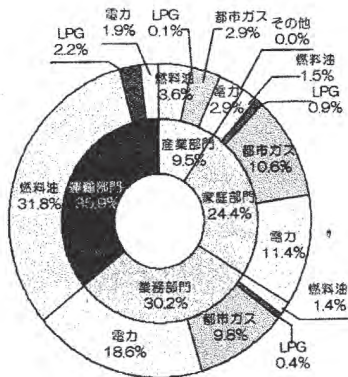
太陽熱の導入に向けた課題では…①買い替え需要が多く、新規需要がない ②施工技術やデザインの改良が進まない ③これまで住宅供給側による太陽熱の取組みが弱く、認知度が低い…このため都では、住宅供給側が主体的に新規需要を生み出すために、新たな施行技術やデザイン性の改良を進ませ、まずは新築住宅中心に太陽熱の導入を進展させる。住宅供給事業者に補助金を出し、事業者がエンドユーザーに供給するという仕組みだ。

また、マンション環境性能表示に太陽光、太陽熱を追加したり、23年度で18.6億円の区市町村への補助、都有施設への再生エネ導入指針などを打ち出したりしている。こうしたきめ細かい手当てなどによって、過度の「電力依存社会」からの脱却が喫緊の課題だ、としている。



都有施設への再生エネルギー導入指針では、屋上の日影の状況と用途を考慮した太陽熱の優先的利用の考え方を提示している。たとえば、日影ができる部分がわずかなのか多いのかによって、屋上緑化や太陽光発電などができるかできないかの違いになる。そして、建物の屋上の有効利用では、太陽光、太陽熱、屋上緑化などをバランスよく配置して利用率を向上させる。

目標達成に向けた各分野での導入・利用の考え方



- * 産業部門：バイオマス燃料の利用や事業所の敷地内での再生可能エネルギー発電、グリーン電力証書の活用等
- * 家庭部門：暖房や給湯などの低温熱需要に対する太陽熱利用や太陽光発電の設置促進
- * 業務部門：太陽光発電設置やグリーン電力証書の活用、バイオマス燃料への転換や太陽熱利用
- * 運輸部門：バイオマス燃料の利用推進の検討

再生可能エネルギー利用への補助



住宅用創エネルギー機器などの導入促進事業では、太陽光発電システムでは6月21日から補助の受付を開始している。補助単価は1kWあたり10万円。そしてガス発電給湯機と燃料電池については準備ができしだい受付を始める。再生エネによる電力消費の削減では、太陽熱利用システムに対して1㎡あたり7万円の補助を行う。これも準備が整いしだい受けけるが、すでに140億円の

補正予算が成立している。(9月15日から受付開始)

とくに古いタイプの電気温水器は、電力消費が大きいうえCO₂の排出量も大きいので、早く太陽熱型に切り替えるよう呼びかけている。7万円/㎡という単価は集熱機の面積が6㎡なら42万円になる計算だが、都では一般的なソーラーシステムの設置コストの約半分と見込んでいる。

とにかく、エネルギー転換への効率がよい太陽熱の普及・拡大に向けて「家に降りそそぐ太陽の熱をそのまま使おう！」とアピールしている。

樺美智子遺稿集

復刻

『人しれず微笑まん』

発行：永絵夢社
発売：新泉社



本著は、ごみかんの名物理事長、田浪政博が編集・復刊した念願の一冊です。
1960年6月15日、国会を取り囲む安保反対のデモ隊の中にいた樺美智子さんの死は、その時代の象徴でもありました。
同年に母親の光子さんの手でもとめられベストセラーとなった遺稿集に、鶴見俊輔、道浦母都子、塩見孝也らの文章を加えて9月末発刊されます。いま、この時代にあつて、私たちをまつすぐに見つめる樺美智子さんを感じるのには私だけででしょうか。(え)

定価：税込み 2625 円のところ <<ごみかん会員割引>>

- ① 郵送の場合 2400 円 (送料込)
* 郵便振込で 00150-6-578801 (有) 永絵夢社出版局
☆「ごみかん会員」と書いてご注文ください。
- ② 直接購入の場合 (集会などで) 2200 円
☆「ごみかん会員」とお申し出ください。

お問い合わせ：田浪政博 042--393-0152